

第4回播磨町地域公共交通会議 議事概要

日 時	平成28年2月3日(水) 14:00 ~ 16:00
場 所	播磨町役場 第一庁舎3階 BC会議室
出席者	<p>【播磨町地域公共交通会議委員】</p> <p>清水 俊博(国土交通省 神戸運輸管理部兵庫陸運部 首席運輸企画専門官)</p> <p>木本 和彦(兵庫県東播磨県民局 加古川土木事務所 所長補佐企画調整担当)</p> <p>細川 重敏(加古川警察署 交通第一課 課長)</p> <p>北川 博巳(兵庫県立福祉のまちづくり研究所 研究課主任研究員兼課長)</p> <p>水田 節男(代理 公益社団法人兵庫県バス協会 総務部長)</p> <p>中野 秀明(神姫バス株式会社 加古川営業所 副所長)</p> <p>團野 利男(神姫バス労働組合 執行委員)</p> <p>工藤 司郎(一般社団法人兵庫県タクシー協会 加古川営業所)</p> <p>大辻 國夫(住民代表)</p> <p>森田 孝 (住民代表)</p> <p>村上 とみ子(住民代表)</p> <p>福本 大了(住民代表)</p> <p>大西 裕一(住民代表)</p> <p>清水 ひろ子(播磨町長)</p> <p>角田 英明(播磨町 理事)</p> <p>赤田 清純(播磨町 土木グループ統括)</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>岩原 直子(兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課 副課長兼地域交通班長)</p> <p>【事務局】</p> <p>岡本 浩一(播磨町 企画グループ統括)</p> <p>堀江 直美(播磨町 企画グループ)</p> <p>濱田 祐輔(播磨町 企画グループ)</p>
欠席者	西山 陽子(播磨町 子育て支援センター)

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 議事

会長) 前回会議では、議論だけでなく、実際に現地を周回し、様々なことを確認できてきたと思う。今回は実証運行を目的にしている上で説明をいただき、審議する。それでは事務局より資料確認をお願いしたい。

(事務局 資料確認)

会長) 実証運行計画書について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局 資料説明)

会長) 1 頁にあるように、実証運行は、平成 28 年の 10 月から 11 月を目途に開始するのが目標である。以前から話しているが、試験運行、実証運行の期間中はダイヤやルート、料金の評価を行い、適宜見直しを行いましょうということである。運行形態については、第 1 回から議論しているように、コミセン便という形態でやっていく。幅員については、播磨町は狭小な道が多いことから、運行ルートを設定するときの要件が大変ということを前回に確認、実証した。バス停については、町有地の関係等もあり、まだ具体には選定、調整ができていない。それらをもとに、本日はルート案の調整、時間帯と本数、運賃について議論したい。運賃については、他市町の動向や収支率を確認していかなければならない。基本の方針等について意見はあるか、では、ルートについて意見はあるか。西部コミセンのところに時間規制があるということで、留意しなければならない。バス停について、事務局より補足をお願いしたい。

事務局) 播磨町は狭小な道や交差点が多く、難航している。広めの道や町有地が絡むところにはピックアップをしているが、個別協議が必要になっている。

会長) 停留所については、ある程度事務局へお任せをしなければならない部分もあると思う。どれぐらいの箇所がピックアップされているのか。

事務局) 現在のところは 10 か所程度である。

会長) 前回現地を見た通り、設置が困難な場所もあると思う。慎重に検討していただけたらと思う。ルートをもとに調整を図りながら決定するということがよいか。次に運行時間帯と運行本数である。他市町の事例や、アンケートによると、大体 8 時から 18 時台に運行、本数については 2 台で運行し、1 日 7 便程度となる。なかなか決まらないのが、毎日運行か平日のみ運行か、土日祝減便か、猪名川町のように曜日運行にするかである。よくあるのは、最初は毎日やっていたが、調査により土日祝日は乗車人数が少ないため、運行を止めて、平日のみするケースである。今回は毎日運行である。実証運行という意味に立ち返るとよいのではないかと思う。予測は午前にはよく乗るが、午後は減ると予測される。この件について何かあるか。

委員) 行きは土山駅から播磨町駅で、帰りは播磨町駅から土山駅ということでよいか。

事務局) そうである。1 日 7 便あり、2 ルートあるので、全部で 28 便/日となる。

会長) 現在の運行時間はどのくらいか。40分くらいか。

事務局) 停車時間も含めそのくらいになると予測している。

会長) 時間は、路線バスよりもかかってくる。路線が播磨町駅から土山駅まで約5分。コミバスは、迂回していくのでその分時間がかかってくる。次に運賃の話をする。基本的には町民のニーズを満たす運賃設定がされる。よく言われるのは、均一性か距離制にするかである。東播磨地域でも統一は図れていない。運賃については、100円か200円とあるが、今日決めてしまいたい。コミバスの利用は高齢者が多いということを見ると、均一性は覚えやすい。他にも収支を考えなければならない。町の財政、町の負担も考えていかないといけない。100円であれば9.5%の収支率予測で、200円であれば19.0%の収支率予測である。実証運行の重要な役割については、この運賃を見定めることだと思う。重要なのは、続けていけるかというところが重要。町長のご意見をいただきたい。

委員) この事業については、最初から採算が取れる事業と思っていない。出来るだけ多くの住民に気軽に使っていただきたいので私の意見としては100円と思っている。コミバス利用者の多くは生活面で余裕のある世代ではないと考えている。バス運賃は片道ではなく、往復の料金で考えるべきと思う。往復400円になると、負担が大きく感じられる。誰も乗っていないバスを走らせるのは無意味である。5年先、10年先を見据えた住民への福祉のひとつの事業と考え、なるべく乗りやすい料金設定をし、外出機会を増やしてもらえればと思っている。

会長) 利用される方にとっては安ければよいと思う。ただ公共交通は、競合相手の話がある。播磨町の場合は、一番の競合相手は自転車というところで難しいというのが1点。もう1点は狭い町域で既存のバス路線と重複する箇所があるという点。これについては、事業者が決まっていないので、何とも言えない。この点について何かあるか。

委員) 明石のTacoバスは現在100円だが、現在、見直しの審議会を行っている。市長の方針等もあるが、100円であれば町の負担が増えるので、その点は考えていかないといけない。

会長) 実証運行の入り口というところでは、低めに値段設定をすると需要、潜在的な数が良くわかる。やっていく内に議論が上がってくると思う。事業者の意見も伺いたい。

委員) コミバスの運賃の設定は重要なポイントであり、直接競合せずとも、近隣の路線バスに良くも悪くも影響を及ぼすということを、念頭におきながら考えていただきたい。

委員) お互いに共存していきたい。今はバスに乗ったことがない方や、身近に感じていない方が多いと思う。路線バスとは、所要時間に大きな差がある。日頃からバスの乗車ということを経験してもらわなければならないと思う。コミバスは、町を周回するようにしているので、普段からバスの利用をもらい、身近に感じていただきたい。播磨町は高齢化率が25%を超えており、徐々に増えている状

態である。高齢化に伴い、路線バスやコミバスと区別した考え方ではなく、公共交通として考えていただきたい。ただコミバスが周回して時間をかける分、路線バスと同水準の料金を設定しても、乗ってはもらえないと思っている。高齢者に1回往復400円の負担は大きいと思っている。最初から200円ではなく、100円で運行していただきたいと思う。

会長) 高齢者ドライバーも増加し、代替の交通手段を考えると公共交通は重要である。バスや、タクシー等と一体となって、公共交通は大事だというキャンペーンをできればよいと思う。町長のおっしゃっているのは、交通手段のためだけの事業ではないということ。実証運行なので、様子を見ながら決定したい。別の事業者のご意見も伺いたい。

委員) 運賃設定条件は、利用方法の活用により料金は変わってくると思う。特にコミバスは生活に直結するものなので、負担を軽くすることは理解できる。ただ、既存の公共交通への影響もあるかと思う。一方の利用が上がれば、一方の利用が下がるということもある。ただ、100円での実証運行は致し方ないと思う。当面100円の実証運行した上で、最高値の運賃にするという条件を付けて、試行するのの一つの手段かと思う。

委員) 播磨町が目指しているのは、一方が上がれば、一方が下がるではなく、全体として公共交通の利用者を増やして、住民が移動手段の選択肢をたくさん持てるようにしたい。タクシーにはタクシーの、路線バスには路線バスの、コミバスにはコミバスの役割があると思う。その中で料金設定の差は仕方ないところである。

委員) 公共交通の総合的なバランスをみながら、導入していただきたい。完結的な導入であれば、補助制度も適用されないかなと思う。

委員) 高齢者の自動車事故の抑止にもなる施策だと思う。先日ルート等も見せていただいたが、若干修正が必要な箇所もあるが、趣旨は理解できる。ただ、播磨町は狭小な道が多く、時間規制がある場所、二子の狭い道等には注意していただきたい。またコミセンがあるところには、敷地内へ止めるような努力をしていただきたい。

会長) 実証運行については100円致し方なしということで、実証運行は100円で設定かと思います。期間はどのくらいを考えているか。

事務局) 年度をまたぐが、約1年間を予定している。

会長) 公共交通を住民に意識づける活動を播磨町で頑張ってください。ことぶき大学や子育ての世代へアピールできるようなもの実施していただきたい。結局は取り合いではなく、利用者を底上げするようなイメージを持っていただきたい。気になるのはリフト車両であるので、バス停設定は考えないといけないと思う。一応、実証運行計画については、合意をいただけたということで、手続きに入

っていただきたい。

(清水俊博委員より地域公共交通確保維持改善事業及び貸切バスの安全確保の徹底についてご説明)

会長) 本格運行にあたっては、補助の話も出てくる。最後に事業者選定について、一番は安全性の確保が必要である。こちらに関しては、播磨町に努力していただきたいと思う。

委員) 運行について質問。15 頁の運行車両だが、車椅子の利用があると、2 名分の定員が減ったりというところで、積み残しが出た場合の対応はどうしていくのか。

事務局) 多くの利用があれば、積み残しもでると思う。経費の関係もあるが、事業者の方からご提案をいただきと思っている。ただ、それにより経費が増えるとなると検討が必要なところだと考えている。

委員) 明石では、積み残しはタクシーが拾っている。

会長) 積み残しの想定はしておいた方が良い。タクシー事業者にご協力いただく場合も出てくる。

委員) 1 頁に実証運行中、定期的に評価をするとあるが、どういう評価をするかということ具体的に考えているのか。

会長) 収支率だけでなく、ほかの要素もあるかと思う。基準については、県の交通政策課で出されているので、ご紹介していただきたい。

委員) 県では「コミュニティバス・アセスメント指針」を作成している。沿線人口の利用率や、収支率等全体を見て、評価項目を決めていただきたい。28 市町のうち半数は、1 便当たりの利用者数を設定しているのが実情である。利用実績に応じて、高めに設定していたり、それに合わせて設定するというのが多い。

会長) 宿題としては、見直しの値や基準を決めることになる。最近難しいのは車両の発注が間に合わないと聞いている。事業者の選定についても早めに決めて、協力を頂ける体制を作っていただきたい。事務局から他何かないか。

事務局) 本日の会議において、コミセン便実証運行計画書(案)についてご承認いただきありがとうございます。また、運賃についても実証運行は 100 円で実施ということでご承認をいただきました。コミセン便という名称を使用していたが、今後はコミュニティバスという名称で会議をしていきますので、ご理解をお願いいたします。

会長) 最後に副会長にあいさつをいただきたい。

副会長) 200 円では乗らない。いつまで自分で運転するのかという気持ちはある。播磨町では、いつまで自転車も乗るのかという気持ちもある。160 円や 230 円もダメだと思う。以前エヴァンゲリオン新幹線に乗ったが、すごく人気があった。ただ白いバスが走っているのでは、乗らない。神姫バスがしているような広告をしたり、愛称がつくような、夢のあるバスをしていただきたい。

4. 閉会